

長野県建築士会 佐久支部

ちしよ



佐久の蔵元

—秘蔵元禄の壺—
大澤酒造株式会社
佐久市茂田井 2206

大澤酒造は、中山道望月の間の宿「茂田井（もたい）」にある。江戸時代は茂田井の庄屋を勤めていた。

元禄二年(1689年)の創業時の日本最古の酒が保存されていた。漆で封じられた古伊万里の壺の栓は昭和43年に開栓され、よい香りが部屋一杯に広がり味はシェリー酒のようであったという。

「民俗資料館」
「山林美術館」
「名主の館、書道館」
を併設している。

中山道より

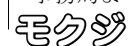


日本最古の酒



仕込風景

支部長あいさつ	2
課長のあいさつ	3
会員の活動	4~9
中間報告	10
第4回親子で作ろう!!	
ウッドクラフト	11
有名建築探訪の旅	12
建築士フォーラム	12
特別寄稿	14
新会員の声	15
関プロ茨城大会に参加して	16
事務局より	16



新年挨拶

(社) 長野県建築士会佐久支部

支部長 **重田 元一**



新年明けまして、おめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、清々しい新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。昨年は、支部の事業に活発な参加、ご協力をいただきありがとうございました。

本年もよろしくお願い申し上げます。

支部を上げての事業活動であります会員大会も6回を数え名称も“建築士ネットワーク佐久2010”と変え、気持も新たに会員以外の参加者をつのり、昨年以上の盛り上がりの中、技術研修会、文化講演会、支部の委員会発表等、無事終了する事が出来ました。

今現在、総務企画委員会を始め6の委員会があるわけですが、各委員会が活発に活動していると支部全体が活々してくると信じております。本年も各委員会の力で支部を活発化させていくことをお願いします。

さて、去る11月24日に、新しい法人移行に伴う会計統合等支部説明会がありました。本会より関会長をはじめ4名の方に来ていただき、支部からは34名の出席者で行われました。会計統合に伴い支部活動が今迄通りできなくなるのではという意見が出ましたが会費が統一されていないため、1名あたりの会費の中から人件費、本会会費、経費等を引いた額が支部会員の数だけ活動費として支部に支給されるという事です。佐久支部の場合21年度とシュミレーションをした24年度では、会員の減少と言う事が大きな問題ですが、21年度の支部1名当たりの活動費は17,517円に対して24年度は、11,897円という数字が出ています。21年度393名の会員にたいして24年度見込みは371名という会員数での計算だと言う事です。これからは、会員の増強が大きな課題となってきますので、会員1人1人が新しい会員を増やすという

気持ちになってもらいたいものです。

また、関会長の説明では、広く会員の意見を聞いて公益か一般か決めたいという話でした。

“建築士会の有り方、推進について”の説明資料を読んでいただき、ご協力ご理解の程よろしくお願いいたします。

今後の支部のスケジュールとして、1月の下旬に臨時総会が開かれます。役員選出、支部財産の問題、新しい支部規約の承認、事務局職員の対応等についてですが、23年度の事業方針予算についても組まなければなりません。それによって3月下旬に行われる本会理事会において各支部の予算が決定されるという事です。それから5月の本会総会において法人の目指す方向が決定されます。

以上が予定であります。会計が移行するだけで支部体制が変わるという事ではありませんので、佐久支部の進むべき道を踏み外さないように、行政、各団体、会員の皆様にご協力、ご指導を仰ぎながら進んで行きたいと思っております。

毎年、新しい法人移行の事が頭から離れませんが、いつでも報告のような挨拶となってしまう申し訳ありません。

昨年は、北朝鮮の韓国砲撃により戦争が始まるのではと思われましたが何とか納まってホッとしている所です。本年は、兎年であります。物静かな動物にあやかって争いのない年であるとともに、会員の皆様のさらなるご発展を願いつつ新年の挨拶といたします。

新年のご挨拶

長野県佐久地方事務所

建築課長 **小林 健吾**



新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は県の建築住宅行政に格別の御理解と御協力を賜り厚くお

礼申し上げますとともに、本年もよろしくお願い申し上げます。

この挨拶文を書きながら思いますのは今年の挨拶での失敗です。

ご存知のように挨拶文の寄稿依頼は3ヶ月前くらいに参りますので実際に皆様がお読みになる時期を創造しながら書かせていただく部分もあるわけです。

このような中では天候の話題は触れてはいけなかつくづく感じております。

暖冬を告げる長期予報を信じて「庭に雪が無い風景は・・・」と書きましたが、実際には結構な降雪があり何年かぶりに孫達とカマクラ作りや滑り台でソリ遊びを楽しむことができましたが、発行された機関誌に目を通すまでに時間が掛かる程気まずい思いをいたしました。

話しは変わりますが佐久支部の若手の皆様の行動力には改めて感動をさせていただきました。

皆様もご存知のとおり、中部横断自動車の一部開通を本年度末に控え、佐久南インター周辺で小学生や地域の皆様と共同で行った植栽活動です。

一昨年12月に星野青年・女性委員長さんとインターの開通時期が見えてきたこと、他の地のインター周辺と同じにならないような景観活動について語り合ったことがございました。

年は変わり、昨年1月の県元気づくり支援金の申請を皮切りに忙しい仕事の合間を縫って小

学校、地元区との打ち合わせ等を重ね、夢のような一つの話しは日を負うごとに現実味を帯び形作られていく状況を見ながら、嬉しさと感動を何度も味あわせていただきました。

携わった皆様には一年間大変ご苦労様でした。

そしてこの活動を契機になお一層若い皆様が地域や支部の大きな力とならんことをお祈りするとともに、積極的な社会貢献を通じ、社会から期待される専門家集団としてまちづくりや景観育成に地域との信頼関係を構築することにより、一緒に活動する仲間（会員）の拡大にも繋がるのではないかと考えております。

赴任しました時の挨拶でも触れさせてさせていただきましたが、私は30年位前に当地で仕事させていただきました。

その時の先輩に藤原さんと言う方が居りまして、夕方一緒に買物に出掛けた際に西の山並みに沈む夕日を見て「地平線に夕日が沈んでいくようだ。」と感激していたことを良く覚えています。

山登りのため、外国へ行くことが多かった藤原さんの目には、大陸の遠くに連なる山並みに沈む夕日のように見えたのでしょうか。

私は佐久を思う時、常にこの言葉を思い出し、佐久は長野県にあっても独特のすばらしい風景を持っている所と思っており、この風景が子や孫の代まで残っていることを願っています。

佐久に赴任以来二回の会員大会に参加させていただきました、半日の時間の長さを忘れるくらい皆様と共に充実した時を過ごさせていただきました。県下でもこのような機会を支部活動として継続的に開催されている所はめずらしいのではと思っております。

これらの支部活動を通じ、本年も（社）長野県建築士会佐久支部の益々のご繁栄と会員の皆様の大いなる飛躍を心からご祈念申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

建築士ネットワーク・佐久2010

『新たな出会いと絆くぎずな』

①支部委員会発表

(その1)青年女性委員会 **大井 正広**

“「みんなで「ねむの木」植えロード”について説明・報告したいと思います。

佐久南インター開通に先立ち、岸野地区と桜井・泉地区の142号線沿いに小学生児童と、地域住民、そして建築士会員とで「ねむの木」を街路樹として植えようというものです。参加者の皆さんには景観の大切さを学んでいただき、又インター開通後も近隣住民や遠方から佐久に来られる方にも愛される道路を創ろうと考えました。

開催日は11月1日、泉小学校担当。11月14日は岸野小学校担当。両日とも5・6年生とその保護者・先生、地域住民の皆さん、そして建築士会員等です。

事前に景観授業も、泉小学校では10月25日(月)。岸野小学校では10月27日(水)に行いました。授業内容は景観に配慮した街の様子とそうでない街の様子を比較しながら、子供たちに意見を言ってもらい、景観について理解を深めてもらいました。色々な質問を投げかけて子供たちと対話しながら、景観にプラスに働くものは誰が見ても綺麗だったり美しいものであることを説明し、新しく出来る街に景観の良いキレイな並木道を創りましょうとまとめました。今回の景観授業を受けた子供たちには、良い景観は人の手で創れるものであるということ。そして、そのために今回の植樹を行うということを認識してもらえたと自負しております。

「佐久南インターの景観をつくる会」の募集も行い、植樹後の管理体制も整えるつもりです。参加者の皆様が景観を大切にする思いをこめて植樹し、遠く離れてもふるさとを象徴する存在となって脳裏に焼き付くような「ねむの木ロード」誕生に向けて青年女性員会で奔走しております。今後ともご理解とご指導、ご協力をお願いいたします。以上

①支部委員会発表

(その2)教育事業委員会 **柏木 邦彦**

会員の皆様には日ごろ教育事業委員会の活動に参加頂き、ありがとうございます。

既にご承知のように新CPD制度では、年間取得単位数が50ポイントから12ポイントに、変更されクリアするのが容易になった事と思いますが、当委員会では様々な事業計画を立案し会員の能力向上、ポイント取得協力を委員全員で努力しております。

簡単ですが教育事業委員会活動を発表します。

- 1 佐久地域建築文化賞開催
- 2 講習会(県・市町村関係)
- 3 実務講習会(業者・メーカー等)
- 4 見学会

以上4本柱から成り立っております。

21・22年度行った活動を今後の予定を含め報告させていただきます。

- 1 <第10回佐久地域建築文化賞>開催H21
一般部門3件、住宅部門12件の応募があり厳正な審査の結果、各賞が決定され支部総会の時地事務所長をお迎えし表彰式が行われました。
- 2 <講習会>カッコ内参加人員
H21. 8/7 佐久市景観計画(23名)
. 9/11 ストープ等…部屋の内装制限(54名)
H22. 2/26 工事監理ガイドライン(31名)
. 6/25 建築確認手続き等の運用改善(87名)
. 10/22 建築物の防火避難規定の解説(34名)
. 11/26 小諸市景観計画
- 3 <実務講習会>
H21. 7/24 性能評価説明会(32名)
. 10/23 住宅瑕疵担保履行法(58名)
H22. 3/5 住宅版エコポイント制度(44名)
. 8/24 硬質ウレタンフォームの概略(40名)
. 12/11 構造用集成材の可能性
- 4 <見学会>
H21. 11/29 川越街並み見学会(24名)
H22. 7/24 建築文化賞受賞作品見学会(16名)
. 9/18 山梨県内建物見学会(28名)

以上

今後一層会員の皆様の参加協力をお願いします。

②技術研修会

「木と鉄と日本文化」

講師 ^{えい かわ}永川 ^{つよし}強先生

情報広報委員会 上原 明彦

建築士ネットワーク・佐久2010の研修会講師にお迎えした永川先生は文化庁認定上級技術者であり、数々の重要文化財の保存復元の設計監理を手掛けられた専門家で、昨年の信州木造塾において講師も務められています。



■日本は木のくに

「万葉集」「古事記」に謳われる古代日本人の木への畏敬の念は、我が国が木を中心にすえて文化を築いてきたことを物語っています。みなさんもぜひ読み返してみてください。現代の我々にも木への親近感や畏れといったものが、DNAとして備わっていることにあらためて気付くことでしょう。

■釘はいつから

松本城太鼓門の新築復元現場の中継放送では、さっきまで盛んに釘打ちをしている作業を目にしていたリポーターがカメラの前に立った途端「この門は釘一本も使わずに造られています」と話すので呆れたことがあります。日本人はよほど釘が嫌いなんですね。釘の名誉のためにお話しましょう。弥生時代の木棺や登呂遺跡の畔のせき板などにすでに釘が使われております。まして本格木造建築は釘無しでは造り得ないのであって、五重の塔に使われる釘は1トン半～2トンという膨大なものです。これは自分の担当した塔で計算したまぎれもない数字です。鉄は利器（武器・道具）のみならず、貨幣の代わりまでもした貴重な金属でありまして、

鉄を制した者が国の支配者になったと言ってもいいほどです。その鉄でできた道具がなければ木造建築は不可能・・・小さな釘や、長斧(ちょうな)、槍鉋といった道具だけで巨大木造建築を生み出した古人の技術はまことにたいしたものです。

■簡潔の美

究極の美として世界の最高建築といえるのは伊勢神宮とピラミッドではないかと思っています。なぜそれらに魅せられるかという、虚飾がなく本質美を表しているからであります。みなさんもそれぞれに自分の考える究極の美を持つ建築は何かを考えてみてください。

過去いろいろな時代を代表する日本建築が今に伝えられています。現在もたくさんの建築をつくり出しているわけですが、昭和・平成時代の人達は何を残してくれたのかという後世の評価に耐えるものは何かと考えれば、単なる模倣や復古調ではなく、伝統の上に立ちながらその時代の魂を込めた建築ではないでしょうか。民家のように、装飾を付け加えなくとも、本来の形そのものが美しいのが日本建築の本質であり、そうした造形美の伝統を受け継いで設計に生かしてゆくのが我々の使命あると思えるのです。

講演後の質疑応答の中で「槍鉋は短く削るものであって、現代の鉋のように長くひく西岡流はウソである」「柱は真円ではないし、礎石や土台がそもそも水平ではないから柱高さも太さも一本一本違うのですよ」との解説もお聞きしました。全ては、現場に立ち数百年前の職人達と対話してきた永川先生ならではの説得力を持って我々の心に響いてくるお話でした。また当日は、先生が持参された原物の釘や槍鉋などに直接触れながら、会員それぞれに興味の尽きない有意義な研修会となりました。

③文化講演会

武田徹氏の講演

「未来に残したい文化的風景」 を聞いて

本田 典子

講演は、自己紹介を兼ねた、ご自身の学生時代の事から始まりました。

学生時代にジャズをやっていたらして、仲間にはタモリさんも居て、現在のタモリさんに至までもよく知っているとの事でした。その頃からのお酒の飲み過ぎが原因で36歳の時肝臓の病気を患って以来、体には気を付けているそうです。そしてお酒を飲まなくなって空いた時間は英会話の勉強や色々な本を読み、カウンセリングの資格もこの時とったそうです。

今はストレッチ、太極拳、半身浴を毎日の日課にしている、太極拳は色々な型があるので頭も使うし、半身浴は1時間位入るので本を読み音楽を聴く。誰にも邪魔されない時間は今の現代人にとって大切な時間。そして汗と一緒に身体に入った科学物質を出す(デトックス)そうです。体調管理をしながら、時間を上手に過ごしている方だと思いました。

講演に来る時長野駅をつくづく見て、以前の駅舎がよかったと思ったそうですが、それは私も同感です。ラジオ番組で「残したい文化的風景」を取り上げた事があったそうですが、10年経つと変わってしまっていて、一度壊すと元には戻らないと心から思ったそうです。

20世紀は進化の時代、大量生産、大量消費で資源は無限にあると思ってやってきましたが、これからは「資源ナショナリズム」資源は自分で確保しなければいけない時代、21世紀は文明的だけではだめ、文化的も大切にしなければいけないそうです。

日本人のDNAに逆らわず、生活する事がすべてによいのだそうです。建物だって、風景だって昔から好いものはよいと力説。そしてハーモニカにて「枯れ葉」をジャズ風にアレンジした曲を演奏してくださいました。

人気映画の「フーテンの寅さん」が49作も作られたのは、作品の中に貴重な日本の風景が

入っていたから。下町の実家、家族団らん、近所の人々、寅さんの旅の乗り物は電車、旅館で泊まり、祭りなどで人と触れ合う。この映画はすべてが文化的であったので、観ていて安らぐ。日本人の欲していた日本的文化、風景があったから人気になった、とご自身で「武田説」ですがとおっしゃっていました。

確かに、安心して観ていただける映画だと私も思いました。



善光寺の門前町の道床は、京都に住むアメリカ人の設計だそうで、この方は、カメラマンの父親の影響で日本が好きになり、京都大学で造園やお茶を学び、日本人以上に日本の文化を大切にしようとしているそうです。植物にも外来種が多くなったけど、日本の文化を大切にしている外国人が多いそうです。ここで「千曲川」の演奏がありました。

川も今はコンクリートで蓋がされ、川音もしなくなった。柳川という町でも昔は生活の一部だった川を置き去りにした為に、川は汚れ、台風のため水害に遭うようになり「掘り割り」を復活させ江戸時代の財産を大切にすることを願っています。

佐久には「浅間山」という風景があるのだから、大切にしましょう。文明は古くなると、手を入れてもどうしようもないが、文化は手さえ入れていけば、古くなるほどよくなるそうです。

身近な古き好き物に目を向けてみようと思いました。

『みんなで「ねむの木」植えたロード』

泉小学校/景観授業を終えて

鎌田賢太郎

植樹事業の一環として、小学生にく景観の授業をするにあたり、まず頭を悩ませたのは『景観の概念を如何に児童に伝えるか』という点だった。

泉小学校での授業は、5年生と6年生を別々に教える授業日程となった。1コマ45分の授業時間で[景観の概念]と[植樹の目的]を理解してもらう為に、新たに景観学習用のスライドを準備し『良い景観』と『悪い景観』を解りやすく映像で見せる方法とした。

個人的な考えでは、景観に『好き・嫌い』はあっても、『良し・悪し』は無いと思っている。僕の個人的な景観論は文字数のムダになるので割愛するが、今回の授業は自分の考える景観論ではなく、解り易さ最優先の内容とした。

【電柱・電線の有無による街並みの違い】

【景観に配慮された看板デザインの事例】

【河川の作り方（親水空間と用水路）】

【建物の形態や色彩に配慮した街並み】

【落書きや放置自転車等の景観を壊す人間活動】

授業は一方的な発表形式ではなく、児童に質問を投げかける問答形式とした。

「どちらの写真が美しいと思いますか？」



児童の興味を引きながら、こんな問答を重ねて、『景観とは？』という概念を感覚で理解してもらった。そして、最後のスライドで

【並木のある道路と看板だらけの道路】

を見比べてもらい、今回の一緒に行く植樹作業

へ話の流れをつなげた。

「一緒に行く植樹は、道路が開通する記念に植えるのではなく、みんなの生れ育った土地に、これから造られる新しい街の景観形成の第一歩になるんだよ。」

こんな言葉で授業の結びとした。45分間に内容を詰め込んだので、どこまで理解してもらえたのか心配だが、「景観」という視点を得てくれていれば本望である。

授業を終えて、先生役も大変楽しく果たせた。小学校の先生方からも良い評価を頂き、「教職免許があれば…」などと冗談も頂いた。

建築士…教師…

進むべき道を間違えたのかも！？

植樹に至るまで、そして当日

井出 正臣

今回、私たちが携わった国道沿いにネムノキを植えるという行為は、ただ単に「樹を植える」という行為と「樹を植えた」という完了に留まらず、そこまでに至る準備過程及び実施状況に、想像を超える苦勞と達成感があつた事は間違いありません。

植樹を行う現地に立ってみると、四百メートルという長さで進行中の道路工事、そして何より常時交通のある国道のすぐ脇で植樹を行うという事に対する恐怖と警戒を強く感じました。泉小学校の児童にはここで平日の授業中に植樹を行うと考えると、安全対策に関する準備に重点を置く事から始まりました。カラーコーンやバリケードを百本単位で依頼し、警備員を四名手配、植樹を知らせる看板を準備し、工事現場監督との打合せを密に行いましたが、当日の不安は消えません。そんなところへやって来たのが季節はずれの台風でした。

植樹を行うのが月曜日、台風通過が準備を予定していた土曜日と日曜日。急遽予定を変更して、植樹用の穴掘り、支柱立て、現場養生を金曜日

一日で行いましたが、広範囲にわたる準備を少人数で行う事は困難を極め、当日に更なる不安を残す形になってしまいました。

植樹当日、台風一過とまではいかないものの、天気には不安はなく、また心配していた準備にも問題はなく、子供達とそして士会の皆様と無事植樹を行う事が出来ました。月曜日午前というお忙しい状況にも関わらず、お集まり頂いた会員皆様の姿が、何より嬉しく心強く感じました。植樹を行った場所は引き渡し前の工事現場ということもあり、高圧洗浄機とブラシで入念に清掃し、一連の植樹行為はようやく完了という形になりました。

社会活動に携わる事の重要性和達成感を経験でき、個人的には大きな満足と感謝をしております。そして何より、ご協力頂いた皆様の姿と行動に触れ、改めて建築士会という団体の他にない魅力と大きな可能性を強く感じました。

「景観授業について」

新津 輝秋

今年の建築士会佐久支部の一大行事であった植樹事業「みんなでねむの木植えロード」。この事業の一環として植樹に参加してもらう地元の泉小学校と岸野小学校の5・6年生に植樹を行う前に「何故、ねむの木を植えるのか?」という事を考えてもらうために、小学生向けに景観についての授業を行うことになりました。

授業の開催時間、内容などを学校の先生方と調整を行った結果、泉小学校では5・6年生それぞれ1時間ずつの授業を別々に行う。岸野小学校では5・6年生合同で2時間の授業を行うことになりました。泉小学校の授業担当は鎌田君、岸野小学校の授業担当は自分だったので授業の開催日は泉小学校のほうが早かった為、自分は鎌田君の見事な先生ぶりを参考（プレッシャー?）にしつつ岸野小学校の授業を行いました。

岸野小学校編は5・6年生合同の2時間授業だった為、1時間目は景観についての授業（内容は泉小学校とほぼ同じ）。2時間目は5・6年生合同のグループに分かれてもらったのグルー

プディスカッションとしました。こちらから提示した市内の町並みの写真を見てもらった上で「どうすれば、この場所をもっと良い景観とすることができるか?」といった意見を各グループ毎に発表してもらいました。植樹を行う予定である佐久南インター周辺の道路の写真について意見を出し合ってもらったところ「沿道に木を植えて緑のトンネルを作りたい」「散歩中休憩できる小さな公園が欲しい」「芝生を植えてみんなが遊べる場にしたい」等といった意見もでて活発な意見交換の場になりました。

当日出席していた青年委員会の建築士、副支部長には各グループの意見に対して助言を行うアドバイザーとして参加していただくことで、グループディスカッションの活性化、小学生と建築士の交流も図ることができ、景観学習を通じて建築士と小学生のコミュニケーションが図れたことも収穫であったかと感じました。

みんなで「ねむの木」

植えロードの裏側で…

青年委員会 飯田 智

重機の大好きな息子を連れていくと大はしゃぎで喜ぶ142号線。佐久中の重機が集まっているのではないかと思われるくらい、沢山の工事用重機が動いています。夜になっても電光のならば142号線はハイスピードで変化しております。

先日、泉小学校・岸野小学校の生徒と共に、「ねむの木」を無事に植える事が出来ました。各小学校の職員の方、PTAの皆様・生徒の皆様、地域の皆様、建築士会の皆様には多大な御協力を頂きまして、青年委員会の一員として、この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

今回の植樹事業ですが、県からの元気づくり支援金の交付が決まり、建設事務所の担当の方と地域の皆様と、打合せを重ねてきました。その中で思った事などを御報告させていただきます。

建設事務所で話し合った内容は、植樹の木についてでした。

建設事務所の方と共通した思いは、ただの殺風景なアスファルトとコンクリートの道路より

は両側に植木があった方が良いという思いでした。ただ、地域の方によく聞いた上で樹種を決めて下さいとのことを再三言われました。建設事務所では実際出来上がる道路の図面も使いながら打合せをしました。まだ田んぼだけの計画地がこんなに変わってしまうのかと驚きでした。



その打合せののち、地域の皆さんに説明会に行きました。地域の皆さんに植樹についての説明が進んでいない事もあり、協力はできないとの反応でした。

役員の皆様は立場もあるので簡単に返事をしてしまう訳には行かず、やるとなれば区民の意見を集め、同意を得た上での協力でなければ一生面倒をみると言う事は出来ませんと言う御意見を頂戴いたしました。142号の周囲には田んぼがあり、稲作やフナを飼うのに支障の無いよう、あまり葉っぱが落ちない木が望ましいという意見も頂きました。そんな中自分は緑が好きなので、植樹などの活動には個人的に参加する事は出来ますと言って下さった方もいらっしゃいました。その時は本当に嬉しかったです。

各打合せを通して感じた事は、色々な立場の人が集まって、一つの事業をするときその人たちの思いが一つになると言う事は本当に難しく、大変な事なのだと言う事です。

事業に参加させて頂き本当に色々な勉強をさせて頂きました。

今回は種まきです。植樹した「ねむの木」の管理を続け、いずれ地域の皆様にきちんと受け入れて頂ける事業に育て上げるよう頑張りたいと思います。

山梨建物見学会

筆者：小林 千恵

本文9月18日の山梨県内建物見学に参加させていただきました。

まずは北川原温氏設計のキースヘリング美術館へ。光と闇、床のレベル差などでキースが生きた混沌とした時代が表現された空間となっていました。

小作にてほうとうを美味しくいただいた後は安藤忠雄氏設計の竜王駅を見学



いたしました。

三町合併により誕生した新市の象徴となる駅ということで甲斐市に関連したモチーフである「水晶」と「聖牛」、甲斐市を一つにつなぎとめる意味で「銚」の三つがコンセプトとなっているそうです。ガラスと



三角形が組み合わされたフォルムはとてもシャープな印象を受けましたが、ガラスには周囲の景色が映り、自由通路からはアルプスの山々を望むことができ、周囲に溶け込んでいる様に感じました。



平成 22 年度事業中間報告

月 日	行 事 名	場 所
7. 1	第 2 回青年女性委員会	佐久グランドホテル
7. 2	県木造塾運営委員会	長野県建築士会館
7. 3	第 3 回情報広報委員会	佐久グランドホテル
7. 6	第 1 回総務企画委員会	かつ栄
7. 8	東信ブロックゴルフコンペ	千曲高原カントリークラブ
7.14	県建築士フォーラム実行委員会	長野県建築士会館
7.16	第 4 回情報広報委員会	佐久グランドホテル
7.21	第 3 回社会貢献委員会	佐久グランドホテル
7.22	県建築士フォーラム実行委員会	長野県建築士会館
7.24	第 10 回佐久地域建築文化賞受賞作品見学会	軽井沢・佐久市内
8. 3	第 3 回青年女性委員会	佐久ホテル
8. 4	東信ブロック連絡会議	上田市
8. 5	第 4 回青年女性委員会	かつ栄
8. 6	第 2 回 CPD・専攻建築士制度運営委員会	佐久グランドホテル
8.11	県木造塾運営委員会	長野県建築士会館
8.18	第 5 回青年女性委員会	佐久グランドホテル
8.19	県総務情報委員会	長野県建築士会館
8.21	親睦ソフトボール大会	千曲川スポーツ交流広場
8.24	実務講習会	佐久勤労者福祉センター
8.25	第 4 回社会貢献委員会	佐久グランドホテル
8.26	第 1 回 CPD・青年女性役員合同委員会	佐久グランドホテル
8.27	県三役会	長野県建築士会館
8.28	御代田中学校現場見学会	御代田中学
9. 3	第 5 回情報広報委員会	佐久グランドホテル
9. 3	県理事会	長野県建築士会館
9.10	第 3 回 CPD・専攻建築士制度運営委員会	佐久グランドホテル
9.10	第 6 回情報広報委員会	佐久グランドホテル
9.16	三団体親睦ゴルフコンペ	立科ゴルフ倶楽部
9.16	第 6 回青年女性委員会	佐久ホテル
9.18	山梨県内の建物見学会	山梨県
9.21	第 2 回三役会及び第 2 回理事会	佐久グランドホテル
9.28	県社会貢献委員会	上田市
9.29	第 2 回 CPD・青年女性役員合同委員会	かつ栄
10. 6	県ゴルフ大会	南長野ゴルフクラブ
10.13	第 7 回青年女性委員会（ホットボンド工作準備）	星野組
10.15	第 4 回 CPD・専攻建築士制度運営委員会	佐久グランドホテル
10.16・17	親子で作ろう！ウッドクラフトイベント	イオン(株) ジャスコ佐久平店
10.21	第 2 回三役委員長会議	佐久グランドホテル
10.22	建築物の防火避難規定の解説及び建築確認の為の基準総則集 団規定の適用事例講習会	佐久勤労者福祉センター
10.26	県青年女性委員会	長野県建築士会館
10.27	岸野小学校景観に関する授業	岸野小学校
10.29	県建築活動委員会	長野県建築士会館
10.29	桜井地区植樹作業準備	R 142 桜井地区
10.30	建築士ネットワーク・佐久 2010	千曲パークホテル
11. 1	みんなでねむの木植えロード（泉小学校植樹）	R 142 桜井地区
11.11	第 2 回総務企画委員会	かつ栄
11.11	第 8 回青年女性委員会	星野組
11.13	岸野地区植樹作業準備	R 142 岸野地区
11.14	みんなでねむの木植えロード（岸野小学校植樹）	R 142 岸野地区
11.16	第 3 回三役会及び第 3 回理事会	佐久グランドホテル
11.20	建築士ネットワーク 2010 in 上田	上田市
11.24	会計統合等説明会	佐久勤労者福祉センター
11.26	小諸市景観計画に関する講習会	佐久勤労者福祉センター

「第4回 親子で作ろう!! ウッドクラフト」事業報告

社会貢献委員長 山田 功

10月16、17日の2日間、ジャスコ佐久平店にて「親子で作ろう!!ウッドクラフト」を開催致しました。今回で第4回を数え、多くの参加者を得て、無事終えることが出来ました。

開催の目的は、私たち「建築士会」を多くの皆さんに知っていただく事と、建築の重要な材料である「木」を実際に触れ、良さを感じていただくこと事にあります。

内容としては、巣箱・プランター・花台・イスの4種類の製作コーナー、ホットボンドを使用した自由な工作コーナー、枝の輪切りを使って顔などを描くペイントコーナーを設けて、親子で参加していただくイベントです。

巣箱やイスなどの製作コーナーは、釘とビスだけで組み立てることが出来るよう、あらかじめカンナがけし、切断して、釘穴を明けておいた加工した材料を組み立てていただき、作ったものを差し上げるコーナーです。巣箱は30台、プランターは50台、花台とイスは55台ずつ、合計で190台用意しました。

基本的には、親子での参加が条件ですが、お孫さんを連れてお祖父さん御祖母さんも参加して頂きました。巣箱・プランターは15分、花台・イスは30分程度で完成できます。

製作には、かなづちの打面の平ら、丸みの説明から、握り方、打ち方もお教えしながら、親子で楽しんで作ってもらえるように、なるべく士会員は見守り、怪我だけは注意するよう心がけました。

ホットボンド工作コーナーは、色々な樹種の枝や木の実を材料に、ホットボンドで接着して、自由に作るコーナーで、虫や怪物、クリスマスツリー、表札など等、本当に様々な独創的で面白い作品が出来上がりました。

ペイント工作コーナーは5、6cmの輪切りの枝に色々な色で顔を描いていきます。今年はフクロウの形に加工した材料も加わり、子供たちは可愛く目鼻を描いていました。

ホットボンドコーナーとペイントコーナー

は、隣接して設けてありますので、参加者は両方のコーナーを行き来しながら、それぞれの材料を使いながら製作を楽しんでいました。

両コーナーとも終日賑わい、子供だけでなく、お母さんも真剣で、中には2時間以上も楽しんでいた方もありました。

教育事業委員会には、佐久地域文化賞作品パネル、佐久支部20周年記念の「子供が描く未来のスケッチ展」写真展示もお願いし、「建築士会」を紹介することが出来ました。

ウッドクラフトは、社会貢献委員会が当初より担当して来ましたが、昨年より青年・女性委員会も加わり、今は支部の大きな士会の広報の場として役割を担っている事業となっています。また、今回は、上田情報ビジネス学院の生徒7名がスタッフとして加わっていただき、新たな交流が出来たことも成果に挙げられます。

この事業には、当日はもちろんですが、材料の調達から加工などの準備まで、本当に多くの会員の方々によって、進められています。忙しい中、苦勞することもあります。参加して下さる親子の皆さんとのふれあい、その笑顔を見る時、「また来年も。」と思うのです。応援してくださった皆さん、本当にありがとうございました。この紙面をお借りし、お礼申し上げます。お疲れさまでした。



有名建築探訪の旅

～百万石の城下町・金沢と 高岡・瑞龍寺視察研修～

「もうひとつの小さな?目的」 佐藤 穂高

「楽しかった。行って良かった。」

帰って来て家に着いた時の感想です。

12月4日・5日にCPD専攻建築士制度運営委員会と青年・女性委員会の共同企画による「有名建築探訪の旅」で石川県金沢市を中心に9ヶ所程見学・体験して参りました。

主だった研修先は「ます寿し工場」「兼六園」「21世紀美術館」「妙立寺(別名…忍者寺)」「武家屋敷跡 野村家」「近江町市場」「金沢駅」「高岡瑞龍寺」等です。



加賀藩を支えて来た歴史ある建物から国宝・現代の有名建築まで網羅した今回の研修旅行は“すばらしかった”のは言うまでもありませんので、一つ一つの内容についてはここでは割愛させていただきます。と言うのも、今回の研修の目的にはもう一つ小さな目的も含まれておりました。今回、フリーテーマとして感想文を依頼された、青年・女性委員である私は、それら



の目的の内容について少々書かせていただきます。

その小さな目的とはズバリ!!将来を担う若い建築士の会員増強!!です。そして今回、勧誘に積極的に参加していただいた方の力も加わり、目的通り初参加の人を含め大勢の青年・女性委員のメンバーが参加することができました。

旅行という気持ちの高揚も加わりバスの中や宿泊先の夕食時の宴会も、ほんの数時間前に初めて会った人達と冗談を言って笑ったり、建物を見ては互いの意見を交換し合う事も出来て、こちらの目的も充分満足いくものと感じました。また、年末近くの忙しい中、色々な準備・企画をしていただいた関係委員の方々には、誌面を借りて御礼申し上げます。

「建築士フォーラム 2010 in 上田」

「国宝・重文三寺めぐり」

H 22.11.20 (土) 大竹 雅英

日本の古建築の中で、五重塔と三重塔に興味がある。何故かと問われると、木造塔は眺めているだけで理屈なしに美しい。また、地震で倒れないという不倒神話があり、その技術は現代の構造力学でも解明できない謎のひとつでロマンがあるからだ。現在建設中の東京スカイツリー(高さ634m)の建築構造にも、五重塔に倣って心柱を応用した制振システムを採用しているという。

建築史家や建築構造家たちの様々な仮設について、『五重塔はなぜ倒れないか』上田篤編に書かれているので、今回の三重塔めぐりに参加するにあたって読み返してみた。柔構造の提唱者でもあった故棚橋諒博士は、塔の持つ高い耐震性を次のように説明している。①塔は一般の構造物に比べてゆっくり揺れる(固有周期が長い)。②塔は単位面積当たりの木材使用量が多く水平力に対する抵抗力が大きい。③塔は大きい変形に耐える(仕口部の遊びによって塑性変形能力が大きい)。④塔は木の組物で振動を緩和する(減衰効果が大きい)。以上の4つは今日の超高層建築の制振理論に応用できるセオリーで、古の工匠の知恵に驚かされる。

わが国の木造塔のルーツはインドのストウパ（卒塔婆）であり、仏教とともに中国大陸から朝鮮半島を経て日本に伝えられた。心柱・相輪・深い軒の出・斗と肘木・飛檐垂木・勾欄など、日本人の美意識によって独自のプロポーションを持つ造形美に発展したようだ。

今回は「国宝・重文三寺めぐり」として塩田平にある大法寺三重塔（国宝）、前山寺三重塔（重文）、安楽寺三重塔（国宝）の三寺を訪ねた。いずれも山地寺院であり、周辺の景観との調和を考えて山腹に三重



塔が配置されている。全国に国宝三重塔は13基あるが、長野県がその北限であり、しかも13基のうち長野県の2基は塩田平にある。身近に貴重な建築遺産が大切に保存されていることは、とても幸せなことだと思う。

青木村の大法寺三重塔（国宝）は、修理の際に見つかった墨書によると鎌倉時代から南北朝時代に移る過渡期の1333年に造営中で、四天王寺の工匠によって造られたと分かった。大阪から工匠8人がやってきて造営に関わり、地方的なくずれのない手法で正規に造られている。当時の中央の建築技術が工匠たちによって地方へどう伝わってきたかを想像すると楽しい。塔の姿があまりに美しく何度も振り返るほどであることから「見返りの塔」という名で親しまれている。初重は二手先、二重、三重は三手先の組物としているため、屋根の大きさが上層ほど小さくなりズッシリと安定感がある珍しい工法だ。屋根の桧皮葺の反り方が絶妙でとても美しい。造営当時は、朱や緑色で鮮やかに着色されていた形跡がみられる。住職がコンパネ板に三重塔を切り貼りした姿図を準備していて、三重塔の特徴を詳しく説明してくださった。

前山寺三重塔（重文）は、室町時代1514年造営。縁も高欄も途中で造るのを止めてしまったように「貫」だけが出ているので、「未完成

の完成塔」と呼ばれている。敢えてやりかけのまま、現状の簡素な状態で調和がとれていて既に完成していると見る考え方もあるそうだ。うーん、と唸ってしまった。凡人には理解が難しい。内陣の天井の隙間から見上げると、太い心柱が初重天井上の梁に立つ（吊られている？）のが見える。住職夫人手作りの名物”くるみおはぎ”をお茶、漬物と一緒に美味しくいただいた。

別所温泉にある禅宗安楽寺の本堂裏の急な山道を登ると、山腹に三重塔が見えてくる。安楽寺三重塔（国宝）は、蝦虹梁の伐採年(1289年)から鎌倉時代末期の造営と科学的に証明された。禅宗様の八角三重塔で、初重に裳階をつけた珍しい形式だ。日本に現存する唯一の八角形の塔。見上げると禅宗様の特徴である扇垂木が美しい。三重塔の心柱は初重天井上の梁に立つ



ことが普通で、内陣の真ん中に本尊を安置する空間ができる利点がある。住職の案内で二段天井が美しい内陣の須弥壇に安置されている大日如来像を拝ませてもらった。

最後に、「建築士フォーラム2010 in 上田」を企画・運営していただいた皆様に感謝いたします。



特別寄稿

理想と現実

出澤 潔

紅葉に彩られた木々の葉が散りしだく頃、作詞家の星野哲郎さんが亡くなりました。「兄弟船」や「みだれ髪」に何かしらの思い出を持つ人、「三百六十五歩のマーチ」で元気を貰った人、夜な夜なのカラオケで友人との絆を強くした人などなど、星野さんの詩は多くの人々の心を揺さぶり、捉えています。街や村に流された数え切れない多くの詩は、人々に親しまれ愛され、いつまでも歌い続けていくことでしょう。

この偉業を思うとき、あらためてこの作詞家の持つ類まれな資質、人への深い愛、隠された強い意志と弛まない努力、そしてそれらの詩を取り巻く作曲家、歌手、レコーディング関係者など多くの人々の存在をも思い出さないわけにはいきません。作詞家から生まれた多くの詩はそれらを取り巻く多くの人々の力で更にエネルギーを増して光り輝いているのでしょう。そして、さまざまな思い出が心の財産として大切にされ、その詩がいつまでも愛され大切にされているのだと思います。

宮本忠長先生がある時こんな事を仰られました。「地域の人達が大切に思い、愛する建物はいつまでも残るものだよ」。

大変プリミティブなものの考え方かもしれませんが、私はこの世に存在する全ての人は、何かしらの役割を与えられていると思っています。そして、自分に与えられた役割を誠実に果たし合うことこそが、その社会を健全に明るくするものだと思います。私達はさまざまな場面で、家族の一員として、会社の一員として、グループの一員として……さまざまな役割を与えられ、一生懸命その責任を果たそうとしています。

そして、私達がどんな時でも一貫してその責任を果たさなければならないのは、資格者として常態的に行っている建築に対する行為です。

私達は人が生きるうえで何よりも大切な空間環境づくりに関わっています。豊かな空間環境は豊かな人の心を育み、人を思いやる優しい心

を育みます。人が持っている役割りはそれぞれに大切な意味を持っていますが、中でも私達が持つ役割りには、地域社会の豊かな空間や姿をつくりあげる大切な役割りがあり、その事を私達自身があらためて自覚して、実践し、地域社会に理解を求めていく事が私達の責任でもあると思っています。人のための空間環境はそれに携わる全ての人々の叡智と技術によってつくりあげられ、その地域の人々に愛され大切にされ、いつまでも人々の思い出に残るものであって欲しいと思います。

原稿を打ち込むパソコンの手を休め、日頃の自分の行為を思うとき、顔が赤くなるのを感じひどい自己嫌悪を覚えます。

今、長野県建築士会は平成25年末までに答えを出さなければならない新法人制度への対応という大変難しい宿題を与えられています。この事の解決にあたっての役職員のご苦勞は並々ならないものであろうと思います。そして、私達もこの事を十分に理解し、建築士と建築士会の将来に向けて間違いのない判断をしなければならないと思っています。

「公益」とは広辞苑によると「社会公共の利益であって広く世人を益すること」であるとしています。

私達が資格者として行っている日常的な行為は、その基には経済的行為がありますが、行為の結果が公益的行為となって初めて本当の意味での資格者としての責任が果たせた事になるのではないのでしょうか。そんな私達が所属する団体は当然の事として公益を目的とする団体であって、その団体が実践するさまざまな事業はその目的に沿ったものである筈である事は議論の余地がないように思います。

新法人制度の公益社団法人への道はハードルが高く、さまざまな厳しい条件があると言われています。その厳しい条件を私達がどう受け止め、どう解決することが出来るのか或いは出来ないのか、きちんとした情報を自ら求めて、建築士と所属する団体のあるべき姿を考える時にあるように思います。理想を高く持ち続けながら、現実をしっかりと見据えた議論は必ず私達を正しい方向に導くことでしょう。

新会員の声

高見澤 晃

突然の原稿依頼を頂き、多少戸惑いましたがこの度、建築士会の一員になれたということで是非書かせていただきます。

テーマは自由ということでしたが「皆さん、けっこう苦しんでいる声が多い。」とのお話を伺いました。なので、とりあえず自分なりに思いっきり「苦しい」社会の現状認識をしようかと思えます（笑）。

普段はあまり意識していませんが、驚異的な速度で進む少子高齢化。といいますか既に高齢社会でしょう。そういった状況のなか、先行きの見えない社会情勢による、この閉塞感、不景気感。ますます着工数が減少、仕事も減少ということになっています。そもそも質には疑問が残るものの量的には住宅は既に飽和しているのではないのでしょうか。

ですが、新築を信仰する文化というか、男子たるもの一生に一度は家を建てるのが本懐という流れもありますし、建て直さなければならない状況ももちろん無くならないと思えます。

そこでこれからの建築士ができることは何でしょうか？結局、ありきたりですが私は身体の長寿命化と省エネルギーだと考えます。この国の住宅の多くは木造ですが、木造でも 100 年は普通に持つ住宅を、構造的にも陳腐化にも耐えられる家をつくる。そういったことにより世代間で受け継がれ、大きなローンを背負わなくてもよくなれば、教育や文化、芸術にも余ったお金を回せる余裕が出てくるはず。それは豊かな社会に寄与することになるでしょう。質さえ上がればとにかくにも新築信仰も影を潜め、それは省エネルギーに繋がりますし、質が上がった建築自体も省エネルギーにより環境問題の解決に寄与します。更には夢のような話なのですが、木材を地産地消、国産材使用することによって、壊滅的なこの国の林業、及び森林を守ることに寄与する、まさに夢ですがこういったことにも関わっていける仕事、それが建築士ではないかと考えます。

なんだか大風呂敷を広げてしまいましたが、一人では無理な事でも多くの同志がいれば豊かな社会をつくることは可能だと思います。そういった期待が出来る組織だと私は感じています。まだまだ若輩者ですが、皆様、宜しく願います。

部屋と建築と私

高見澤絵梨

こんにちは。新入会員の高見澤です。

建築の世界に飛び込んで早 3 年。まだまだ未熟な私ですが、毎日建築と向き合っていて生活しています。友人が建築をやるということから、私も興味を持ってなんとなくからはじまった建築との関係。はっきり言って、他にやりたいことが見つからないということで、続けているという部分もありました。でも続けるうちに、人の人生に関わる責任ある仕事であるということ、人に喜びを与えることができるということがわかってくると、建築の仕事にやりがいを感じずにはいられませんでした。

私は、人を喜ばせたい（喜ばれたい）と思っています。人のためにがんばることで満足している自分に気づき、人のために自分のためになると気付いたのです。

そして、今はそのツールが建築であると思います。そのために私は勉強したり、経験したり、いろんな人の話を聞いたりします。まだまだやるべきことはたくさんあります。

「自分のやるべきことをやっていれば、必ず何か見えてくる」その言葉を信じて、私の中の答えがみえるまで走り続けます。そして、自分の設計したカフェを経営するというささやかな夢の実現のためにもがんばりたいです。

なんとなくからはじまった私と建築との関係。まだまだ仲良くなれそうなので、もう少しお付き合いしてみたいと思います。

これから、どうぞよろしくお願い致します。

関ブロ茨城大会に参加して 重田 仁志

今年の6月に開催された大会は私にとって初めての参加でした。来年の関ブロ大会が長野で行われるということもあり、その現場の雰囲気、他の参加者との交流もかねた参加です。長野県からは、事務局をはじめ各支部から大勢の参加者がまとまり、バス2台で行きました。

私達のバスの中には飯伊諏訪、上小の支部の方々が一緒でした。車内では大会の大懇親会で、長野大会をアピールするという事もあり、諏訪御柱祭の映像、木遣り実演の練習を行いました。

諏訪の会員の方が、映像を見ながら木遣りの掛け声を指導してくれました。地元では木遣り唄全員で掛け声を行うということでした。私を含めほとんどの方が木遣り唄の掛け声は初体験でしたが、これによって少し御柱祭の雰囲気が味わえた気がします。今回、長野県からは60名の参加者がいましたが、実際本番で御柱祭木落しの動画を流し、木遣り唄、掛け声をおこなったところかなりの迫力があり、会場も盛り上がりました。会場の反応を見て長野大会のアピールが出来たのではないかと思います。

大会の大懇親会の後、長野県全体の懇親会も開かれました。

長野大会のアピールという大仕事が無事終わり、茨城大会の事、来年の長野大会に向けての事などを語り合い大変盛り上がりました。

私自身、他県・他支部の方と交流が出来た事がとても良い経験になり、思い出に残る関ブロ茨城大会でした。

平成22年度新入会員

(H 20.11 末現在)

- ・澤野 隆さん (軽井沢町)
- ・高見澤 晃さん (佐久穂町)
- ・石井 要一さん (佐久市)
- ・高見澤絵梨さん (佐久市)

計4名

編集後記

春は、サルビア・マリーゴールドを植え、秋には新しい花壇にビオラを植え、アヤメを株分けしました。

そして、ネムの木ロードに参加し土に親しむ一年でした。

今年は何を育てましょうか.....

H.O より

会報『ちくま』第44号 2011/1
発行者 (社)長野県建築士協会 佐久支部
情報・広報委員会
事務局 〒385-8533 佐久市跡部 65-1
佐久地方事務所内
TEL 0267-63-8080
FAX 0267-63-3330
E-mail ken 8080@aba - saku.org
支部 HP <http://www.aba - saku.org>
印刷所 株式会社 中 信 社
TEL 0267-67-2152



は平成23年7月中旬発行予定です。